

## TOPICS

## 食と医療の安全に関わる市民講座の開催

平成21年10月31日、名古屋市立大学病院大ホールにて食と医療の安全「プリオンはもう怖くないの？」（主催：食と医療の安全に関わるプリオン病の市民講座実行



委員会、後援：農林水産省、厚生労働省、愛知県、名古屋市、名古屋市立大学、ヤコブ病サポートネットワーク）と題して市民講座が開催されました。プリオンに関係する行政担当者、研究者および医療従事者が一堂に会し、BSEに関する食品行政をはじめとして7つの課題についてそれぞれ専門の分野から講演が行われました。総合討論においては、食肉の安全、プリオン病研究、ヤコブ病等多岐にわたる質問が出されました。当所の横山隆プリオン病

研究チーム長は「BSE研究 感染経路・診断法開発」というテーマで発表しました。参加者から野生鹿類のプリオン病といわれる慢性消耗性疾患（CWD）についての質問があり、横山隆チーム長は、日本では現在見つかっていないが監視を続けることが大切であると述べました。参加者は高校生を含めて113名でしたが、このような市民講座を通じてさらにプリオン病に関心と理解をもってもらい、必要性を感じました。

（情報広報課長）

## 農研機構国際シンポジウム

## 「動物用バイオ医薬の将来展望とその課題」の開催

平成21年11月16日、秋葉原コンベンションホールにおいて、農研機構主催、当所企画の国際シン



ポジウム「動物用バイオ医薬の将来展望とその課題」が開催され、民間企業、大学を中心に200名あまりの参加がありました。シンポジウムは全10題、第1部ではサイトカイン製剤を、第2部では組換えワクチンを取り上げ、それぞれの研究開発の状況や国内外での実用化の現状について当所を含む独法研究機関や大学、国内外の民間製薬会社より講演して頂きました。また、農林水産省やコーデックスの担当者にも出

席頂き、行政、国際機関の立場からバイオ医薬を巡る状況について講演して頂きました。バイオ医薬については動物疾病に対する新たな防除技術として重要ですが、乗り越えなければならない問題点も多く残されています。今回のシンポジウムによってこれらについて議論を深めることが出来ました。

（研究管理監（産学官連携担当）

八木行雄）

## アグリビジネス創出フェア 2009 の展示

アグリビジネス創出フェア 2009は、11月25日から27日、幕張メッセにおいて、アグロ・イノベーション2009と同時開催で行われ、22,877名の来場者があ



りました。

動物衛生研究所のブースにおいては、1. 乳房炎診断装置、2. 堆肥熟度判定キット、3. 脳幹機能測定装置、4. 遺伝子操作で作製した動物サイトカイン、5. ブタリゾチームを組み込んだ絹糸の開発、6. 一つの細胞内で二つの遺伝子産物を異なった時間で発現させる系の開発の6テーマのパネルと関連機器やキットを展示しました。また、アグリバイオ実用化・産業化委託研究の成果として

『ブタの子宮深部人工授精・胚移植カテーテル』が展示されました。さらに、動物衛生研究所との共同研究による『富士レジオ株式会社：牛海綿状脳症診断用酵素抗体反応キットの開発』が、平成21年度（第10回）民間部門農林水産研究開発功績者表彰「農林水産技術会議会長賞」を受けました。企業、個人、教育機関、公的機関など様々な方面の方がブースを訪れ、熱い注目を集めました。

（次世代製剤開発チーム

主任研究員 清水 真也）